

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り、日々理念に立ち返り実践できるようにしている。朝礼時は法人の理念・事業所の理念を唱和している。	法人の三つの理念があり、それを基に併設の小規模多機能型事業所とともに複合施設共通の理念を作り方向性を一つにしている。法人の理念は1階玄関にレリーフとして掲げ、更にオープンカウンターのホームスタッフ室にホームの理念とともに張り来訪者に分かり易く示している。利用開始時に利用者や家族にもその主旨を説明し、ホームの姿勢として職員が実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の職業体験は週に1回半年間受け入れを行った。また、納涼祭はご近所の方・自治会の皆さんにも参加いただいた。ボランティアに積極的に来園いただき地域とのつながりを大切にしている。	開設から10ヶ月という中で徐々に周辺の住民との交流が始まっている。納涼祭の開催案内を地区内の各家庭にポストイングし来場を促し、参加をいただくことができた。また、傾聴や腹話術、ギターなど多くのボランティアが来訪し、併設小規模多機能型事業所の利用者とともに楽しんでいる。小学生のぶれジョブや中学生のボランティア体験、高校生の実習の受け入れなどもし、地域での輪を広げている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生の職業体験の受け入れを行った。質問などには丁寧に答える時間をもうけている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営会議を行い地域とのつながりやサービス・消防訓練などに意見をいただき運営に活かしている。	利用者代表、家族代表、自治会長、民生児童委員、第三者委員、市職員、地域包括支援センター職員などが参加し併設小規模多機能型事業所と合同で開催している。活動状況や利用状況、事故や行事、職員研修などについて報告し、委員の方からボランティアを紹介していただいたり、防災訓練についての助言などをいただき、活動や運営に反映させるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市派遣の介護相談員の受け入れを8月からおおむね3か月に1度行っている。認定調査の際は立会いし情報を伝えている。運営推進会議では日頃の様子を報告する中で協力関係の構築を行っている。	開設初年度でもあり運営上のわからないことについて問合せをするなど指導を仰いでいる。介護認定の更新の際には家族からの依頼も申請を代行することもある。また、区分変更の申請についても家族に状況を報告し、代わって行うこともある。地域包括支援センター主催の地域ケア会議には施設長が参加し、認知症高齢者の地域での生活を支えるために関係者と連携している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解できるように職員研修を行い意識を高めている。玄関とベランダへの扉は安全の為施錠しているがご利用者の様子を見て一緒に散歩やベランダでの気分転換を行っている。	法人内に七つの各種委員会がありそのうちの身体拘束「0」委員会を中心に行動を制限する行為がないように啓蒙活動を行っている。職員もその主旨を正しく理解し、利用者が安全で自由に行動できるよう見守りをし職員間の連携もとっている。

グループホームかわべちょう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い資料の読み合わせをした。車椅子の長時間の乗車体験をし感想を出し合い、手引き歩行の際のスピードや普段の声掛けに問題となる点はないか話し合いを持ち身体・言葉による虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースが無い為、まだ学ぶ機会を設けていない。次年度は資料の読み合わせなど行い学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は重要事項の詳しい説明を行い納得と了承をいただいている。加算を頂く時は改めて手紙を出し報告させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で意見や要望を出してもらっている。家族あてにアンケートも実施している。介護相談員の訪問時は利用者や家族の要望や意見を聞いて貰っている。出された要望などは職員に周知し改善している。	殆どの利用者が自らの意見・要望を伝えることができ、特に、健康状態について訴える方が多いという。開設から10ヶ月の間、ホームへの家族の来訪頻度も高く、毎日のように訪れる家族や週末に必ず訪れる家族もあり、職員と顔馴染みとなり気軽に話せる関係となっている。納涼祭、家族会など家族が集う機会に職員が家族と個々に話す機会を設け意見・感想などを聞き運営に反映している。ホーム便りを毎月発行し家族のもとに配布している他、請求書送付時に利用者一人とひとりの1ヶ月の様子などを記した管理者手書きの手紙も同封し家族との意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談の時間を持ち意見をきいている。管理者と職員が1:1で話す時間をもうけ意見やアイデアを聞き日々のケアの見直しや事故防止に取り入れている。	毎月第2月曜日の夜スタッフ会議が開かれており、前半は併設小規模多機能型事業所と合同で法人の業務連絡があり検討事項などについて話し合わせ、後半はグループホームと小規模に分かれケアカンファレンスも含めた職員の意見交換の場となっている。平成28年度の本格導入を目指した人事考課制度の試行段階の中で職員と管理者との面談が持たれ意見・提案も聞き入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事評価制度がH26年度より開始され個々の努力や実績が評価されている。また勤続年数に応じたりフレッシュ休暇等がありやりがいや楽しみを持つ事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は法人内外の研修を受ける機会を設けており、働きながら学ぶ機会を得る事ができている。資格取得のために情報の発信や研修の機会など設け支援をしている。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームへの交換研修が行われている。個々に目標を決め研修終了後は振り返りを実施している。得たことは日々の業務やサービスに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接しご本人より生活のご希望や不安など伺って安心して入居頂けるようにしている。入居後も心身・表情の観察に努め不安無く生活が始められる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に不安なことなどお聞きしている。入居後も近況などを面会時やお手紙で報告しご家族も安心出来る様にしている。要望等は職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	顔なじみのケアマネジャーの面会を受けたり、電話で家族と話す時間をこまめにとるなど本人と家族の希望する支援を行える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割やレク・会話の中で力が発揮できるように関係を築いている。毎日の生活の中で利用者にお礼の言葉を伝える事を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を面会時などにお伝えしている。又、家族に対する本人の思いの言葉や表情を記録して伝えるようにしている。家族の思いも受け止め大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方の面会をゆっくり楽しんでいただけるようにしている。また、家族や親せきとの温泉旅行や法事への参列・墓参りなど今までしてきたことが継続できるように支援している。	自宅の近所の方が来訪し歓談する利用者がいる。ホームでは地域の行事や習わしなどを大切にしており、お彼岸やお盆の墓参り、年末年始の日帰りでの帰省、馴染みの神社への初詣など、家族とともに支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できるように観察し、トラブルになりそうなきときはさりげなく別の仕事や役割をお願いするなどして調整役をしている。		

グループホームかわべちょう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了はまだないが、住まい替えなどがあった場合には情報の提供や連携を取り新しい暮らしがスムーズに始められる様に支援していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接伺う機会を持つとともに、言葉にできない時は本人の表情や日常の何気ない一言を大事にし希望や思いを検討し日々のケアに活かす様にしている。	日々の支援の中で必ず声がけし、利用者の意思を確認している。日頃の暮らしの中でのつぶやきや表情なども記録として残し、また、働きかけに対する利用者からの反応なども家族に伝えたりしている。ホームでは一人ひとりの利用者の趣味や嗜好などを今後も更に大切にしていこうと、書道や歌、踊りなどが得意な利用者には他の利用者を指導をしていただくような場も設けていきたいという意向もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握出来る事で本人の思いや希望に近づく事が出来ると思う。入居時には家族の協力を得て生活歴や好きな物嫌いな物シートを記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間の様子や表情・言葉を個別の日課表に記録し職員は共有している。できることを大事に支援しまた、出来ないことで困る事や辛い思いをしないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に暮らしの希望を伺うとともにひもときシートを利用し介護計画に反映させている。	日々のケアプラン実行表や個人別サービス日課表などを基に毎月のケアカンファレンスで計画の遂行状況を全職員で検討している。直接的に介護計画作成への関わりはないが利用者の身の回りをお世話する職員がおり、何か状況に変化があれば計画作成担当者に知らせている。利用者によってはひもときシートを使い介護計画の立案に役立てている。計画は長期1年、短期6ヶ月で立て、家族にも半年ごとに実施状況を報告し意見・要望を聞きとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やなにげない一言や表情を個別の日課表や記録に記入し、その後のケアやプランに活かせるようにしている。日々のプラン実行表もあり毎日確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況で受診の都合がつかない場合は職員が対応している。家族や親戚の方に利用者と一緒に食事をして頂ける様お誘いすることもある。		

グループホームかわべちょう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からお付き合いのある傾聴ボランティアに引き続き来園していただいている利用者がいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もなじみのかかりつけ医による医療を受けられる様にしている。受診時は情報提供を行っている。必要時は往診をしていただけるようになっている方もいる。緊急で家族対応が出来ない時は職員が対応し受診できるようにしている。	利用前からのかかりつけ医を継続している方が殆どである。インフルエンザの予防接種などもそれぞれの利用者毎に接種を受けている。受診の付き添いは基本的に家族にお願いし、受診前後の情報交換は密にしている。法人内の訪問看護ステーションから看護師が定期的に訪れ利用者の健康管理や相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を結びひと月に4回の訪問があり健康観察を受けている。体調に変化のあった時は早めの報告をして必要時は受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、情報提供や交換をケースワーカーを通じて行っている。退院時は主治医による病状説明を家族と一緒に聞かせていただいている。退院準備はケースワーカーと連絡を取り合い受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期にグループホームで出来る事・出来無い事を本人・家族に説明している。 グループホームで終末期を迎えた時は、家族の気持ちの変化や思いを受け止められるよう関係者と連携を持ち支援したい。	法人としての「重度化対応及び終末期ケア対応指針」があり、重度化や終末期を迎えた本人や家族が終焉の場所としてホームを望んだ場合、医療関係者と協力して対応することが謳われている。現在直面する事例はないが緊急時対応についての家族の意向を聞き用紙に記入し万が一に備えている。管理者がターミナル研修を受講し、職員にも伝達研修をしている。訪問看護ステーションとは24時間連絡が取れるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修で年に1回AEDを含めた救急対応を勉強する機会をもっている。また、スタッフ会議を利用し急変時や救急車要請時の対応・手順を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や消防訓練を行っている。消防署の方より緊急時の対応や消火器の使い方を教えて頂き確認している。運営推進会議を通じ地域の協力体制をお願いしている	併設の小規模多機能型事業所と合同の、年2回の総合防災訓練が予定されている。また、9月には法人一斉の訓練が行われており、今年度はパソコンから携帯メールへ一斉配信する連絡網訓練が行われ全事業所と法人本部との連携体制の確認が行われた。利用者も訓練に参加しており、2階のグループホームから避難用スロープが設置されているほか、各種防災機器も取り付けられている。	法人内のバックアップ施設に近いが想定外のことがいつ起きるかわからないので、複合施設独自に非常食や介護用品などの備蓄を確保されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけをするときは表情や声のトーン・口調にも気を付けるように職員で確認している。介助が必要な時は、さりげなく声を掛け本人が恥ずかしい思いや嫌な思いをしないよう努めている。	法人理念に「人間の尊厳を大切にすることが掲げられ、複合施設としての理念にも「一人一人の気持ちを大切にすることが盛られている。法人のサービス向上委員会により毎年、接遇・人権研修が行われている他、受講が義務付けられている基本研修などでも職員は学んでいる。居室の入口にそれぞれのお気に入りノレンを下げて、他の方から見られたくないという利用者の思いも大事にしている。また、自らの居室がわからず他の利用者の居室に入りそうになることもあるが、職員は見守りでそれとなく自室へと案内しプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定でしたい事や食べたいものなど決定できるようにしている。選択しやすいように何うなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその流れはあるが必ず本人に声を掛け意志の確認をしておこなっている。家事仕事など本人のペースに合わせて慌てないように出来る様支援している。消灯時間やテレビの時間は決めず利用者の自由としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部の業者に理美容を委託しているが、本人の希望を伺い好みの色にヘアカラーをしたり、髪のカットが出来る様にしている。お化粧をしたり、スカーフを巻いたり本人のしたい事が継続出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり卵を割ったり下準備や調理・盛り付け・かたづけを一緒におこなっている。また、味付けや味見をお願いしている。やって頂いた時はお礼の言葉を伝えている。	一部介助の方が三分の一ほどいるが他の方は自立しており、食事形態は全利用者が常食である。本部で立てたメニューの食材が配達されているが、行事などに合わせホーム独自にアレンジすることもある。利用者が頂いた柿の皮をむき干し柿づくりをしたり、草団子づくりやたこ焼き・お好み焼きパーティなどもしている。誕生会には手作りケーキや甘いものでお茶会をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養課のメニューを基本としているが、グループホームの利用者の好みやイベント食に変更するときもある。毎食の食事や水分の摂取量を記録して把握している。アイソトニックゼリーを購入されている利用者もいる。		

グループホームかわべちよう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが出来る様声掛けや物品の手渡しなど必要に応じて支援している。義歯洗浄剤や舌ブラシを使用している利用者もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握したり様子を見てさりげなくトイレにご案内している。夜間は紙パンツ使用し起床後は布のパンツで過ごすなど一人一人検討し本人本位を大事に支援をしている。	一部介助の利用者や全介助の方もいるが自立されている方が半数以上おり、一人ひとりに合わせてトイレでの排泄を支援している。ホーム利用後歩行が安定しトイレでの排泄が出来るようになった方もいる。布パンツの方もいるがリハビリパンツにパット使用の方が多。夜間は良眠にするように介助用品の選択にも配慮している。トイレは広く2ヶ所あり立位タイプも設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し排便を確認した時は記録している。便秘の場合は腹部マッサージをしたり医師より処方された便秘薬を服用して頂く。水分や野菜など十分に摂って頂けるように声掛けや提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出などの予定がある時は前日に入浴しさっぱりし外出できるようにしている。入浴の気分にならない方は時間を置いて声掛けしている。日時や回数を決めず本人の希望を出来るだけ尊重できるようにしている。	全利用者が一部介助や全介助で、2～3日おきに入浴している。時間帯は午前中が多く、本人の希望にも応じている。浴室は家庭用と同じ大きさで浴槽へのスライドも容易で3方向から介助できるようになっている。現在必要とする利用者はいないが1階の小規模多機能型事業所には特殊浴槽があり車椅子の方でもシャワーチェアに移乗し入浴できるようになっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動し夜間にぐっすり休めるように支援しているが、午睡が必要な方は適宜横になって頂けるようにお手伝いしている。午睡もベッドではなくリビングのソファがいい方はリビングでうたた寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更があった場合は訪問看護へ情報を提供している。薬をセットする職員と服薬介助する職員を分けダブルチェックし誤薬を防いでいる。薬情で内容の確認もしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の食事づくりや洗濯干しや洗濯たたみ・鉢植えの水やり・肩たたき等得意分野で力を発揮して頂き必ず感謝の言葉を伝えている。ベランダで山並みを見る楽しみを持っている方もいるので一緒に楽しんでいる		

グループホームかわべちょう敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそってスーパーへ買い物やウィンドショッピングを楽しみに行く。近所の公園へ出かけお茶を飲んだりしている。また、家族と自宅へ帰ったり、温泉旅行や喫茶・外食に出掛けられている。	季節や天候に合わせて複合施設周辺を散歩している。買物などの個別支援も行っている。ベランダが広く、プランターを置き花を育てたり野菜作りに挑戦し、また、ベランダから馴染みの山々を見たり、花火の観覧や月見などで気分転換することもある。大まかな計画を立て、花見、ラベンダーの見学、紅葉狩りなどに出掛け帰途に法人の運営するレストランで食事をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の希望で少額のお金を持っている方もいるがほとんどの利用者はお金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や親戚の方からの手紙が来るので本人に渡している。希望や様子を見て家族と電話で会話できるように取次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルやいすは木を基調とし落ち着いた雰囲気がある。季節の置物や花や木の実・果物を飾り季節感を出している。温度・湿度を管理し気持ちよく快適に過ごせるように気を付けている。	共有スペースを中心に南と北に居室が並んでいる。居間と食堂は並びでテレビの前にはソファ、テーブル、イスなどが小分けに置かれている。畳の畳の上がりもあり寛げるようになっている。壁には職員の下書きに沿って制作されたカラフルな貼り絵が飾られ、ホーム入口の掲示板にも行事のスナップ写真が張り出され利用者の笑顔を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり畳のスペースで横になったり腰かけたりと自由に好きな場所で過ごせる。畳コーナーで洗濯物をたたんで頂くなど自宅に居る様に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのたんすやテーブル・椅子また仏壇などが持ちこまれている。仏壇にお供えものをしたりなじみの椅子に腰かけリラクセスされくつろがれている。家族の写真に囲まれている方もいる。	居室には洗面台、ベッド、エアコン、押入れが設置されている。押入れや洗面台両側の細めのチェストで整理整頓が行き届いており高齢の利用者には適度なスペースとなっている。お厨子やタンス、ポータブルトイレなどを持ち込んでいる利用者もあり、壁に誕生日祝いの職員の寄せ書きを飾っている居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に暖簾を飾り個性を出したり分かり易くしている方が多い。廊下やフロアは段差がないのでシルバーカーで歩行ができる。フロアが広いので歩行運動をされている方もいる。		